



2016年7月29日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社
代 表 者 代表取締役社長CEO 畑中 好彦
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東 証 (第 一 部)
決 算 期 3月
問 合 せ 先 広報部長 臼井 政明
Tel : (03) 3244-3201

2016年度第1四半期の連結業績について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、以下「アステラス製薬」）は、2017年3月期（以下「2016年度」）第1四半期（2016年4月1日から2016年6月30日）の連結業績を発表しましたのでお知らせします。

【当第1四半期の業績ハイライト】

- 売上高は微減（前年同期比1.7%減）、但し、為替の影響を除くと約6%増収。コア営業利益（同38.5%増）及びコア四半期純利益（同49.1%増）は増益
- 日本は薬価改定の影響などにより減収の一方、米州、EMEA、アジア・オセアニアの売上は現地通貨ベースで順調に拡大
- XTANDI[®]/イクスタンジ[®]、過活動膀胱（以下「OAB」）治療剤は引き続き伸長
- 2016年度の通期連結業績予想は、期初公表（2016年5月）の予想値を据え置き
- 持続的な成長に向けた戦略課題への取り組みを着実に推進

アステラス製薬の代表取締役社長 CEO の畑中 好彦は、次のように述べています。「前立腺がん治療剤 XTANDI[®]/イクスタンジ[®]、OAB 治療剤などがけん引しビジネスが順調に推移しています。更に、新製品の発売、イノベーションや事業基盤強化への投資を通じて、中長期にわたる持続的な成長に向け着実に歩を進めることができたことを嬉しく思います。私たちは経営計画で掲げる『製品価値の最大化』『イノベーションの創出』『Operational Excellence の追求』の3つの戦略課題への取り組みを引き続き推進していくことで、患者さんをはじめとしたステークホルダーに価値を届けることができるものと確信しています。」

<コア連結業績（2016年4月1日から2016年6月30日）>

（単位：百万円）

	前第1四半期 (2016年3月期)	当第1四半期 (2017年3月期)	対前年同期増減額 (増減率)
売上高	343,659	337,752	△5,907 (△1.7%)
コア営業利益	67,820	93,951	26,131 (38.5%)
コア四半期純利益	45,031	67,148	22,117 (49.1%)
基本的1株当たり コア四半期純利益（円）	20.57	31.60	11.03 (53.6%)

【為替の業績への影響】

当第1四半期の為替レートは、下表の通りです。これらの結果、前第1四半期の為替レートを適用した場合と比べ、売上高においては256億円の減収、コア営業利益においては4億円の増益の影響がありました。

期中平均レート	前第1四半期	当第1四半期	変動
米ドル/円	121	108	13円高
ユーロ/円	134	122	12円高

期首・期末の変動	前第1四半期	当第1四半期
米ドル/円	2円安	10円高
ユーロ/円	7円安	13円高

【売上高の状況】

売上高は3,378億円（同1.7%減）で、為替の影響に加え、本年4月に日本で実施された薬価改定の影響などもあり、減収となりました。但し、為替の影響を除くと前年同期比約6%の増収となりました。グローバル製品については、XTANDI[®]/イクスタンジ[®]のほか、ベシケア[®]とベタニス[®]/ミラベトリック[®]/ベットミガを合わせたOAB治療剤の売上が拡大しました。また、免疫抑制剤プログラフ[®]の売上は為替の影響により減少しましたが、その影響を除いたベースでは増加しました。

<地域別売上高の状況>

*地域別売上高については売上元会社の所在地に基づき集計しています。

日本の売上高は薬価改定の影響などもあり、1,242億円（同1.1%減）となりました。ベシケア[®]とベタニス[®]を合わせたOAB治療剤、消炎鎮痛剤セレコックス[®]、成人気管支喘息治療剤シムビコート[®]などの売上が拡大しました。イクスタンジ[®]の売上は薬価改定の影響を受け減少しました。

また、ワクチンの売上が昨年度に実施された製造元の出荷自粛（一部の製品については既に出荷再開）の影響が続いたことなどにより減少したほか、高コレステロール血症治療剤リピトール[®]や消化性潰瘍・胃炎治療剤ガスター[®]などの売上が、後発医薬品の影響などにより減少しました。

米州の売上高は1,076億円（同6.3%減）となりました。なお、現地通貨ベースでの売上高は995百万ドル（同5.2%増）となりました。XTANDI[®]の売上が拡大したほか、アゾール系抗真菌剤クレセンバが売上に貢献しました。ベシケア[®]とミラベトリック[®]を合わせたOAB治療剤のほか、プログラフ[®]、心機能検査補助剤レキスキャンなどの売上が為替の影響などにより減少しました。なお、現地通貨ベースでの売上はそれぞれ拡大しました。

EMEA^{*}の売上高は853億円（同4.4%増）となりました。XTANDI[®]の売上が拡大しましたが、ベシケア[®]とベットミガを合わせたOAB治療剤、プログラフ[®]の売上は為替の影響などにより減少しました。なお、現地通貨ベースでの売上高は699百万ユーロ（同14.8%増）となりました。

*EMEA：欧州・中東・アフリカ

アジア・オセアニアの売上高は207億円（同3.8%減）となりました。XTANDI[®]、ベシケア[®]とベットミガを合わせたOAB治療剤、前立腺肥大症の排尿障害改善剤ハルナール[®]の売上は増加しました。プログラフ[®]の売上は為替の影響などにより減少しました。なお、為替の影響を除いた売上高は増収（同14.7%増）となりました。

【コア営業利益／コア四半期純利益の状況】

- 売上高の減少を上回る売上原価の減少により、売上総利益は2,663億円（同5.0%増）となりました。なお、売上原価率は製品構成の変化に加え、グループ間取引における未実現利益消去に伴う為替の影響などにより、前年同期に比べ5.1ポイント低下し、21.2%となりました。
- 販売費及び一般管理費は、為替の影響などにより、1,119億円（同5.7%減）となりました。
- 研究開発費は、開発プロジェクトの着実な進展がありましたが、為替の影響などもあり、510億円（同8.9%減）となりました。対売上高研究開発費比率は、前年同期に比べ1.2ポイント低下し、15.1%となりました。
- 無形資産償却費は、90億円（同17.5%減）となりました。

以上の結果、コア営業利益は940億円（同38.5%増）となりました。また、コア四半期純利益は671億円（同49.1%増）、基本的1株当たりコア四半期純利益は31.60円（同53.6%増）となりました。

本年4月にグローバル皮膚科事業を譲渡したことに伴い、譲渡された製品の売上、諸経費が計上されない一方で、受領した譲渡対価を一定期間にわたり収益として認識しています。この結果、当第1四半期において売上高、利益に一定程度のプラスの影響がありました。

【2016 年度連結業績予想】

2016 年 5 月に公表しました業績予想から大きな変動が見込まれていないため、これを据え置き修正していません。

【当第 1 四半期における戦略課題への取り組み】

アステラス製薬は、『製品価値の最大化』『イノベーションの創出』『Operational Excellence の追求』への取り組みを通じて、中長期にわたる持続的な成長を目指してまいります。

<製品価値の最大化>

- XTANDI[®]について、TERRAIN 試験のデータを欧州の添付文書に含めることに関して、欧州医薬品審査庁（EMA）から承認を取得
- XTANDI[®]やミラベトリック[®]／ベットミガの発売国が拡大したほか、日本では PCSK9 阻害剤レパーサ[®]を発売

<イノベーションの創出>

- パイプラインの進捗
 - ▶ エンザルタミド MDV3100（トリプルネガティブ乳がん、米国／欧州／日本／アジア）、イプラグリフロジン ASP1941（1 型糖尿病、日本）、リナクロチド ASP0456（慢性便秘、日本）が第 III 相試験入り
- 新たな取り組み
 - ▶ 昨年度に買収を完了した Ocata Therapeutics, Inc.の統合促進策の一環として、社名を Astellas Institute for Regenerative Medicine に変更。
 - ▶ 健康成人を対象としたバイオマーカーのデータ基盤構築に関する第一三共株式会社、武田薬品工業株式会社との共同研究
 - ▶ 経口コメ型ワクチンに関する東京大学医科学研究所との共同研究

<Operational Excellence の追求>

- 全ての地域で法務機能とコンプライアンス機能を組織上分離し、各地域のコンプライアンス機能を統括する機能を新設
- LEO Pharma A/S（本社：デンマーク）にグローバル皮膚科事業を譲渡完了
- コロンビア販社の設立

2016 年度第 1 四半期連結業績の詳細およびその他の決算関連情報については、当社ホームページ（<https://www.astellas.com/jp/ir/library/index.html>）をご覧ください。

以上

注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラスの業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経

当陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害などがありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。